

平成29年度

第8回大分県教育委員会 議事録

日 時 平成29年7月25日(火)  
開会13時35分 閉会14時27分

場 所 教育委員室

平成29年度  
第8回大分県教育委員会

**【議 事】**

(1) 報 告

- ①平成29年7月九州北部豪雨に伴う被害及び対応状況について
- ②平成29年度大分県学力定着状況調査結果について
- ③ふるさと「しごと」フォーラムについて
- ④高校生ものづくりコンテスト九州大会について

(2) 協 議

- ①大分県立学校いじめ対策委員会委員の委嘱について

(3) その他

## 【内 容】

### 1 出席者

委 員	教育長	工 藤 利 明
	委員	林 浩 昭
	委員	岩 崎 哲 朗
	委員	松 田 順 子
	委員	首 藤 照 美
	委員	高 橋 幹 雄

欠席委員なし

事務局	理事兼教育次長	宮 迫 敏 郎
	教育次長	岩 武 茂 代
	教育次長	木 津 博 文
	参事監兼教育財務課長	森 崎 純 次
	参事監兼学校安全・安心支援課長	宗 岡 功
	参事監兼特別支援教育課長	後 藤 みゆき
	教育改革・企画課長	能 見 駿一郎
	教育人事課長	法華津 敏 郎
	福利課長	中 村 均 子
	義務教育課長	米 持 武 彦
	高校教育課長	姫 野 秀 樹
	社会教育課長	阿 南 典 久
	人権・同和教育課長	樋 口 哲 司
	文化課文化財班参事（総括）	三重野 誠
	体育保健課長	井 上 倫 明
	屋内スポーツ施設建設推進室長	山 上 啓 輔
	教育改革・企画課主幹	下 鶴 直 哉
教育改革・企画課主査	三 浦 晃 史	

### 2 傍聴人

3 名

## 開会・点呼

(工藤教育長)

それでは、委員の出席確認をいたします。  
本日は、全委員が出席です。

ただいまから平成29年度第8回教育委員会会議を開きます。

## 署名委員指名

(工藤教育長)

本日の議事録の署名委員でございますが、首藤委員にお願いしたいと思っております。

## 会期の決定

(工藤教育長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりです。  
会議の終了は14時40分を予定しています。  
よろしく申し上げます。

## 議 事

(工藤教育長)

はじめに、会議は原則として公開することとなっておりますが、会議を公開しないことについてお諮りします。

協議の①は、人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。公開しないことに賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決)

それでは、協議の①は、非公開といたします。

本日の議事進行は、はじめに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行いますので、よろしくをお願いします。

## 【報 告】

### ①平成29年7月九州北部豪雨に伴う被害及び対応状況について

(工藤教育長)

それでは、議事に入ります。

はじめに、報告第1号「平成29年7月九州北部豪雨に伴う被害及び対応状況について」能見教育改革・企画課長から報告いたします。

(能見教育改革・企画課長)

平成29年7月九州北部豪雨に伴う被害及び対応状況についてご報告いたします。

お手元の資料1ページをご覧ください。「1. 豪雨の概要、県内の主な被害状況」については記載のとおりであります。教育関係について申しますと大雨の時間帯が下校時間と重なったこともございまして、一部で帰宅困難となり、学校等に待機する児童生徒・教職員が出たほか、私学ではスクールバスが足止めをくらうといったこともあり、状況確認に時間を要した経緯がございしますが、幸い児童生徒・教職員に人的被害はございませんでした。

施設面につきましては、「2. 教育施設、文化財の被害状況」にございます。(1) 学校では25件、(2) 社会教育施設等6件、(3) 文化財で17件の被害が確認されております。内訳は4ページ以降にございますのでご覧いただきたいと思いますが、多くは雨漏り、浸水被害となっております。

また、9ページ以降に主な被災文化財の写真も添付しております。併せてご参照いただければと思います。

続きまして「3. 学校の休校等」ですが、この度の大雨を受けまして、当初は293の学校で臨時休校措置を取ったところでございます。2ページにかけて記載しておりますように、順次学校を再開しております。2ページの一つ目の※にございますように、日田市立の小野小学校及び戸山中学校の2校で終業式を7月14日(金)に前倒しして実施してお

りますが、その他は7月10日の週までに通常通りの状況に戻っております。また、二つ目の※にございますように、県立学校では、日田林工高校が避難所となりまして、最大42名の住民の方が避難をされたところでもあります。

次に「4. 県教育庁の主な対応」ですが、これまで被害情報の収集と併せまして、児童生徒、学校施設等の安心安全の確保を最優先として、①児童生徒の心のケア、②生徒の通学支援、③被災文化財の復旧支援などに対応してきております。①児童生徒の心のケアでは、速やかに関係市教育委員会それから県立学校にスクールカウンセラーの派遣を打診いたしまして、日田市教育委員会からの緊急派遣要請を受け、7月11日（火）から19日（水）までの間に市内の小中学校7校に対して延べ15名のカウンセラーを派遣し、215名の児童・生徒に対応しております。

次に、②生徒の通学支援ですけれども、参考として記載しておりますように、この度の豪雨災害を受けて、JR線で不通区間が生じております。久大本線では、花月川の橋梁流出もあり、光岡一日田間で不通となっております。また、日田彦山線では添田一夜明間で不通となっております。この日田彦山線の方では、代行輸送も無い状況が続いております。これを受け、1つ目の・にございますように、日田彦山線を利用して日田市内の高校に通う生徒を対象として、ジャンボタクシーを借り上げ通学支援を実施しているところであります。昨日を含め、これまで延べ169名の生徒が利用しております。

夏期休業に入りましても補習等がありますので、当面7月28日（金）までの運行を予定しております。また、県としまして、JR九州に対して不通区間の早期復旧と復旧までの期間の日田彦山線における代行バスの運行についての要請を継続的に行っているところでございます。

最後に「③被災文化財の復旧支援」ですが、重要文化的景観「小鹿田焼の里」におきまして、唐臼の流出、唐臼への導入路に泥や流木が堆積するといった被害が確認されておきまして、これに対して、商工労働部、それから西部振興局などと連携しまして、復旧に向けた支援を進めているところでございます。また、日田市豆田地区重要伝統的建物群保存地区においても、草野家住宅、廣瀬淡窓旧宅をはじめとする多くの文化財で床下浸水、雨漏りなどの被害が確認されておきまして、これに対しましては、日田市教委それから関係大学と連携を図りまして、学生ボランティアを活用した支援を調整しているところでございます。

以上、九州北部豪雨に伴う教育関係の被害及び対応状況ですが、今後とも関係機関と連携を取りながら復旧に万全を期してまいります。報告は以上でございます。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(林職務代理者)

児童・生徒ともにケガがなかったということですが、自宅が被害に遭い、現在避難所で過ごされている方はいますか。また、その方へのケアはどのようにされていますか。

(能見教育改革・企画課長)

児童・生徒の中には、自宅が被災して知人・親戚宅に避難している方がいます。必要に応じて心のケア等を行っていきたいと考えています。

(高橋委員)

今回、日田で亡くなられた3名のうち1人が消防団の方で、小さいお子さんがいらっしゃると思いますが、その子の心のケア等も学校で行っているのでしょうか。

(宗岡参事監兼学校安全・安心支援課長)

今回被害に遭われた方のお子さんのうち1名が小野小学校に、2名が戸山中学校に通われております。今回緊急でスクールカウンセラーの派遣要請があり、カウンセリングを行いました。併せて、日田市の教育支援センターのカウンセラーもカウンセリングを行っております。

(工藤教育長)

県境の町ということで、特にかなりの高校生が東峰村から日田市に来ておまして、いろいろとその対応がありました。タクシー会社の協力もあり、今のところなんとか通学に繋がっているところです。できるだけ早く代行バス若しくは路線の復旧をお願いしたいと考えており、JRには様々な形で要望していきたいと考えております。

(高橋委員)

文化財等の被害が多く出ていると思いますが、復旧にはどれくらいの時間がかかりますか。

(佐藤参事監兼文化課長)

小鹿田焼についてはこれから時間がかかると考えています。また、豆田の街が床下浸水等の被害を受けたことから、ボランティアの方に泥の掻き出しを行っていただきました。小鹿田には調査に行きましたが、登り窯に火を入れないと被害状況がはっきりと判らないとのことで、調査には半年以上の時間をかけてやっていくこととなります。経費の面から

も全ての復旧には1年近くかかるのではないかと考えているところです。

(高橋委員)

できるだけ早期に復旧できるよう支援をお願いします。

(松田委員)

スクールカウンセラーを派遣して児童生徒の心のケアを行っていくことが大切ではないでしょうか。

また、ボランティアに参加した高校生の名前が分かれば感謝状等を出すことを検討してみてはいかがでしょうか。生徒の励みになると思います。

(岩崎委員)

今回の豪雨で大変な被害が出ていることから、市町村教育委員会や学校現場からいろいろな要請や要望等が出たと思いますが、具体的にどのような点が一番大きな問題だったのでしょうか。また、その問題にどのように対応したのでしょうか。さらに、今後の豪雨災害の対応に係る課題についてどのように捉えているのでしょうか。

(能見教育改革・企画課長)

今回の課題として、なかなか被害等の状況確認が進まない面がございました。特に日田市においては大規模な土砂災害により孤立集落が出たため、そのあたりの確認に時間を要したところです。県教育委員会としては、日田教育事務所、中津教育事務所が中心となり、両市教育委員会との連携を図ってきたところです。各市の教育委員会は地区の災害対策本部としての対応もあるので、別途、日田教育事務所、中津教育事務所から両市教育委員会に職員を派遣して常時連絡が取れるような体制を取りました。

まずは、現場が混乱する中でも情報を円滑に集約できるような体制を構築することが重要と考えておりますので、今回の対応の検証を行ってまいります。

(工藤教育長)

教育事務所が市町村教育委員会にリエゾンを派遣し、直接いろいろな生の情報が入ってきたのは大きなプラスであったと考えてます。そのような情報網をしっかりと作れたと考えています。

今回、孤立集落の中に特別支援学校の生徒がいて、なかなか連絡が取れない状況がありました。このような状況で情報を早く掴むにはどうすればよいかというのは県全体での課題であり、何ができるかということ

を探っていかなければならないと思います。今回は孤立集落に衛星携帯をうまく投入できたことが大きかったです、それは非常に深刻な状況の中、携帯電話が繋がらないということで、その家の方が電波塔の所まで3kmほど歩き、学校に連絡してくれたことで、現場の状況が掴め、自衛隊にも特に気を付けてほしいと伝えることができましたし、衛星携帯の早期投入につながりました。

特に県境のため、東峰村から来ている生徒が多い状況がございますが、福岡県側も必死にいろいろと対応しておられるため、情報を逐次もらえるようになってきたところです。東峰村の生徒が日田市内に避難しているという状況もありますので、そのような情報を我々から福岡県側にも繋げることができればよいと思います。

この他いろんな課題がないかということ整理して本部会議でも議論したいと考えています。今回は、5年前に同じ場所で被災していることから、意識レベルも高く、教育委員会に限らず、県全体でかなり頑張って動いていたという感じがしております。

(岩崎委員)

私たちが所属している大分県弁護士会は九州弁護士会連合会(九弁連)という組織の一員です。今回の豪雨災害に関して、単位弁護士会としては、福岡県弁護士会、大分県弁護士会がそれぞれ対策本部を立ち上げて対応しました。そして、各単位弁護士会のテリトリーをまたぐ県境情報の交換や支援の必要性などについては、九弁連が間に入って調整をしています。これと同様に、教育委員会でも、福岡県教育委員会と大分県教育委員会とが県境情報や互いの協力関係が十分にできるような体制を整備することが大切だと思いますが、そのあたりはどのようになっていますか。

(工藤教育長)

TVニュースなどでは、福岡の方がこちらよりひどい状況だという感じでしたが、九州各県では、九州のいずれかの県が被害を受けた場合には、それをどこの県が支援するというチャンネルが決まっています。今回は長崎県にその対応してもらい、いろいろな情報が長崎県を通じてやりとりされました。それは従前から決まっておりました、今回それはうまく機能していました。また、熊本県が昨年の被災の恩返しということで、被災対応の経験のある職員をこちらに派遣してくれまして、学校でケアをしてもらいました。

九州では頻りに様々な災害が起きていますが、その経験を踏まえ、お互いの情報をやり取り出来る体制が整ってきていると感じています。

## ②平成29年度大分県学力定着状況調査結果について

(工藤教育長)

続いて、報告第2号「平成29年度大分県学力定着状況調査結果について」米持義務教育課長から報告いたします。

(米持義務教育課長)

報告第2号として、本年4月26日(水)に実施しました、「大分県学力定着状況調査の結果について」報告します。

本調査の目的は、教育委員会として児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題の検証・改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証サイクルを確立すること及び学校において児童生徒への学習指導の充実や授業の改善に役立てることにあります。

調査の対象学年は、小学校第5学年、中学校第2学年です。調査した教科は、小5は国語、算数、理科の3教科、中2は国語、数学、理科、英語と今年度初めて実施された社会の計5教科です。社会の実施については、教育委員会や中学校社会科教員などからご要望を受けたことと、社会科の授業改善が後れを取らないようにと考えたからであり、全教科の授業改善に向けて、今年度一步踏み出したところです。

1ページをご覧ください。国立、県立、私立学校も含めた県全体の教科別偏差値平均について、小学校は全ての教科で偏差値50を超えました。一方、中学校は[社会活用]のみ偏差値50に0.2ポイント届きませんでしたでしたが、その他の教科においては、全て偏差値50を超えました。

2ページをご覧ください。平成20年度以降の偏差値平均の推移と、県が実施した学力向上施策をまとめています。小学校は5年連続で全ての教科区分において偏差値50を超えています。また、中学校は、国語、数学、理科、英語の4教科では、2年連続で偏差値50を超えています。社会科が下回ったことは、ある意味不安が当たったことでもあり、今後の改善が必要です。全体としては、小・中学校とも全国平均並みの学力が定着している状況です。

3ページをご覧ください。市町村ごとの結果を一覧にしております。なお、町村内に1校しかない姫島村の小・中学校及び九重町の中学校については、自治体としての結果が学校の結果となるため、数値を公表していません。また、着色している箇所は、偏差値50を超えている教科区分になります。小・中学校併せて、全ての教科区分で偏差値50を超えたのは宇佐市です。宇佐市が好成績な要因としては、①近隣の中学校同士の授業研究が活発である、②近隣中学校で共通の定期テストを実施し、指導法を切磋琢磨している、③管理職及びミドルリーダーの指導による「新大分スタンダード」の質の向上に取り組んでいることなどが挙げられます。また、豊後高田市、臼杵市、日田市も全教科区分ではあり

ませんが、全体的によい状況です。特に中学校が向上した臼杵市は、宇佐市同様の取組を行っており、「中学校学力向上対策3つの提言」の効果と考えられます。

4ページをご覧ください。ここからは、児童・生徒質問紙調査の結果について説明いたします。「教科の勉強はどれくらい好きですか。」という質問について、小学校は中学校より数値が高く、経年で見ても大きな変化はない状況ですが、中学校の肯定的な回答の割合が全体的に増加しています。特に課題であった数学が著しく増加しています。次に、「教科の勉強はどれくらい分かっていますか。」という質問について、小・中学校ともに肯定的な回答の割合が増加しています。特に、数学・英語は、平成25年度と平成29年度を比較すると10ポイント以上増加しています。1ポイントは約100人ですので、良好な傾向と考えます。

5ページをご覧ください。「新大分スタンダード」に関わる質問項目のうち、いくつかを抜き出して全国と県の回答結果を比較しています。

肯定的回答の割合は小学校の1項目のみ全国平均を1.4ポイント下回っているものの、その他の質問では全国平均を上回っています。特に、「中学校学力向上対策3つの提言」により、中学校において「新大分スタンダード」の定着が1年で随分進んだ結果となっています。

6ページをご覧ください。全国平均値よりも肯定的に回答した生徒数が1ポイント以上高い質問を「良好な項目」として小・中学校別にまとめています。「良好な項目」は、小学校で5項目、中学校で9項目あります。とりわけ「思いを伝える力」については小学校で全国平均値よりも2.3ポイント高く、中学校でも昨年度の全国平均に届いていない状況から上昇し、全国平均値よりも1.8ポイント高い結果となっています。児童・生徒が自分なりの考えをもち、それを表現することは、「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成する上でも、大変重要なものであり「新大分スタンダード」の「生徒指導の3機能」を生かすこと、問題解決的な展開の授業など取組の成果が表れたものと考えます。

8ページをご覧ください。教科ごとの結果概況と、その結果から見えた課題・対策を記しています。教科ごとに別途詳細な報告書を作成しているところですが、本調査結果の内容を全ての教員で共有するために、概要版を作成し配布しました。今後、各学校でも結果を分析いただき、2学期以降の日々の授業改善に役立てていただきたいと思います。

最後に、本調査結果を踏まえた今後の取組として、①成果が出ていない学校に対して、「個に応じた指導の手引き」を基にして、習熟度別指導の在り方や個に応じた指導を徹底する、②今年度から実施している中学校数学巡回指導について、指導を強化しながら2回目の指導を実施していく、③本調査結果と全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた「第1回学力向上検証会議」で具体的な改善方針等の提示するなど、引き続き本県の学力向上の取組を一層推進してまいります。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(岩崎委員)

3ページを見ると地域格差がうかがえますが、地域格差が生じる要因は何でしょうか。義務教育ですので、市町村教育委員会の取組の状況や努力によるところが大きいのですが、県教育委員会が「芯の通った学校組織」による組織的な取組を進めていても、地域ごとに取組の温度差があるように思われます。そのような実情についての県教委としての認識や今後重視したい方針等があれば教えてください。

(米持義務教育課長)

平成25、26年と比べると偏差値合計の差が小学校では2ポイント、中学校では20ポイント程度縮まるなど、一定程度市町村間の格差が縮まってきているという認識です。ただ、常に偏差値が高い市町村もあれば、そうでないところもあります。

どこの市町村にいても、子どもたちに一定の力を付けさせないといけませんので、市町村単位で「3つの提言」等に取り組み、成果を上げた臼杵市や宇佐市の取組を他の市町村にも広め、そのような取組を支援していきたいと考えています。

(岩崎委員)

地域間格差は縮まってきているということですが、各市町村教育委員会が県の教育委員会の方針を理解していただいて同じ方向を向いた上で、これまで県教育委員会が示してきた方針について理解・協力していただいているという認識を持っていますか。

(米持義務教育課長)

今回の結果から、宇佐市と臼杵市が他市と大きく違うところが3つあると思います。一つは市教育委員会に学力向上に対する熱意があること。それを校長がしっかり認識をして課題として受け止め対策を練ろうとしていること。それから「中学校学力向上対策3つの提言」の一つである近隣校との教科部会がしっかり機能していること。この3つをしっかりと行ったところは今回成果が出ています。県教育委員会としては、そのことを各市町村教育委員会に認識してもらうことが重要であると思っています。

(松田委員)

学力向上支援教員が配置されている学校に、さらに指導主事も指導に行くことが成績の向上に繋がっているということですが、学力向上支援教員の指導によりどのくらい効果が出ていますか。

(米持義務教育課長)

中学校の学力向上支援教員のうち数学を専門にしている教員は13名です。各市町村に一人いるかいないかという状況です。その教員が域内の全中学校の数学の教員に専門的な支援ができていますかといいますと難しいと思われまます。そのため、その点を補うためにも義務教育課の指導主事が全ての学校に出向き、実際の授業を参観し、今求められている数学の授業の在り方について指導を行っています。この取組は専門的な指導の機会に恵まれるということで、各学校から喜ばれている状況です。

(首藤委員)

今回初めて社会科の調査を実施されて、どのように感じていますか。

(米持義務教育課長)

社会科の授業については、現行の学習指導要領に沿って、講義的な授業だけでなく、話し合ったりまとめたり、それを聞き合ったりする言語活動が重要であると言ってきましたが、授業改善が遅れていることが今回確認できました。

知識については偏差値50を超えていますが、活用については偏差値50を切っており、そこに緩みがあったということが確認できました。

社会科においても、しっかり知識を理解する部分に加えて、自分の考えをまとめたり説明したり議論したりする時間を一定程度作らないといけないということを県内に伝えたいと思います。

(首藤委員)

8ページを見ますと、「社会的な思考・判断・表現」の問題で、正答率が7～8ポイント下回っているということですが、今後どのように改善を図っていくか教えてください。

(米持義務教育課長)

昨年12月に行いました各市町村の代表者が集まる教育課程協議会には中学校社会科部会も参加しました。代表者として来た方の報告では、今求められているバランスの良い授業ができているということでした。ところが、教育事務所による学校訪問等では授業のほとんどを教師がしゃべっている場合が多い状況がございました。したがって、教育事務所の課題認識と校長の認識を擦り合わせながら授業改善を進めていきたいと思えます。併せて高校入試でもそのあたりが求められていることを確

認しまして、授業改善を進めていきたいです。

(首藤委員)

毎年、高校入試の問題入試の問題を解きながら、どの問題が思考力・判断力・表現力を問う問題であるかということを考えています。このようなものを参考にしながら、高校入試の問題の改善にも力を入れていただきたいと思います。

(工藤教育長)

来月の終わりには、全国学力・学習状況調査の結果が分かりますので、そのことも踏まえて、しっかり取組を進めていきます。

### ③ふるさと「しごと」フォーラムについて

(工藤教育長)

続いて、報告第3号「ふるさと「しごと」フォーラムについて」姫野高校教育課長から報告いたします。

(姫野高校教育課長)

報告第3号「ふるさと「しごと」フォーラムについて」報告します。1ページをご覧ください。「1. 目的」にありますように、「普通科高校における大学等への進学希望者に、大分で働く職業人からの基調講演やシンポジウムを通して、働くことの意義や大切さを理解させるとともに、企業が求める人材について理解させ、県内企業での体験を通して、大分の企業の魅力や地方創生に果たす役割を発信し、将来、大分で働くことをイメージさせる。」ことが目的です。昨年度から実施しており、「3. 期日」のとおり平成29年8月1日(火)にホルトホール大分等で開催します。

「6. 日程」のとおり、午前中2時間程度、各生徒は各自の希望により企業を訪問します。13時40分からホルトホール大分にて三和酒類株式会社取締役副社長の下田雅彦様より「大分で働くことの魅力」という演題で基調講演していただきます。続いて14時40分から「私が県内企業を選んだ理由」というテーマでシンポジウムを行います。

続いて2ページをご覧ください。普通科高校2年生が対象ですので、生徒の志望学部に応じて体験コースを設定していくという手順をとっております。なお、昨年度のアンケート等を踏まえながら、生徒の希望や本事業の主旨を考慮して右欄にあります26社の企業を決定したところでございます。

続いて3ページをご覧ください。最終的に「おおいた学生登録制度」登録者を増加させていきたいというのが一つの狙いです。平成27年度

は公立私立を合算して2,707人だったものが、平成28年度には4,513人に増加しております。今年度もフォーラム等を通じながら、「おおいた学生登録制度」の登録者の増加に努めてまいりたいと考えています。報告は以上でございます。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(高橋委員)

「ふるさと「しごと」フォーラム」を通して生徒の仕事に対する意識が変わったか分かりますか。

(姫野高校教育課長)

アンケート等で自分のキャリアに対して意識が高まったと回答した生徒が多くいました。また、生徒は秋に企業のインターンシップに参加しますが、その参加者数にも昨年度は表れております。

(高橋委員)

一層生徒の意欲があがるよう、引き続き指導してください。

(松田委員)

企業の魅力によるところもあると思いますが、学生が街自体の魅力に惹かれているところもございます。学生からは福岡が圧倒的に人気です。どうしても給料面、街の魅力という面で福岡は有利ですが、福岡の企業は宣伝も上手にされていますので、そのような点も参考にしながら取り組むことも大切ではないでしょうか。

(林職務代理者)

例えば宮崎大学や高知大学などでは、最近、地方創生に関わる新しい学部が創設されています。そのような大学や学部に興味を持つ高校生も多いと思うのですが、地方創生について高校ではどのように取り入れていますか。

(姫野高校教育課長)

例えば、高田高校は地域の高校活性化支援事業で北九州市立大学の地域創生学群と合同での取組を行っています。このような取組を他の高校へも広げていこうと考えています。

(林職務代理者)

大分大学でもそのような準備ができていると思いますので、活用してみてもはいかがでしょうか。

(姫野高校教育課長)

今回のシンポジウムでも大分大学COC+推進機構の岡野涼子さんにそのような取組について話をさせていただこうと考えております。

#### ④高校生ものづくりコンテスト九州大会について

(工藤教育長)

続いて、報告第4号「高校生ものづくりコンテスト九州大会について」姫野高校教育課長から報告いたします。

(姫野高校教育課長)

報告第4号として、平成29年7月8日(土)、9日(日)に鹿児島県で開催されました「高校生ものづくりコンテスト九州大会の結果について」報告します。

今回の九州大会には電子回路組立から家具工芸までの8部門に大分県代表として3校が出場しました。旋盤作業と化学分析の2部門に大分工業高校、電気工事、電子回路組立、木材加工、家具工芸、自動車整備の5部門に鶴崎工業高校、測定の1部門に佐伯豊南高校が出場しております。

1ページをご覧ください。その中で2部門が表彰されました。

「電子回路組立部門」で、鶴崎工業高校の電気科3年生の左村康暉(さむらこうき)君が優秀賞、「化学分析部門」で大分工業高校の工業化学科3年生の崎山(さきやま)実幸(みゆき)さんが優良賞を獲得しています。

生徒たちはこのコンテストを通して、図面や回路図などを読み解く「読解力」や課題分析に必要な「発想力」などを身に付けることができたといった感想を言っていました。

今回の九州大会では惜しくも最優秀賞を逃し、全国大会の出場権を獲得できませんでしたが、後輩が思いを引き継ぎ、次年度に向けて頑張りたいと意気込んでいました。報告は以上でございます。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(工藤教育長)

ないようですので、先に非公開と決定しました議事を行います。その前に公開でその他、何かございませんか。では、非公開の議事を行い

ますので、関係課長のみ在室とし、その他の課室長及び傍聴人は退出してください。

(関係課以外及び傍聴人退出)

## 【協 議】

### ①大分県立学校いじめ対策委員会委員の委嘱について

(工藤教育長)

では、協議の①「大分県立学校いじめ対策委員会委員の委嘱について」宗岡参事監兼学校安全・安心支援課長から説明いたします。

(説 明)

(工藤教育長)

ご質問・ご意見のある方はお願いします。

(質疑・意見等)

(工藤教育長)

それでは、最後にその他、何かございますか。

それでは、これで平成29年度第8回教育委員会会議を閉会します。  
お疲れ様でした。